



菊池史子 個展 “TELLING A STORY” 映像作品展示

VIDEO Solo Exhibition by Fumiko Kikuchi

2019.2.16 (Sat) —3.2 (sat)

日、月 休廊 Closed on Sunday, Monday

12:00 - 19:00

CLOSING with ARTIST TALK

3.2 (Sat) 18:00 ~

ドイツより作家来日。作家を囲んだクロージングパーティを開催します。

YUKI-SIS

東京都中央区日本橋本町 3-2-12 日本橋小楼 202 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

3-2-12- #202,Nihonbashi Honcho,Chuoh-ku,Tokyo

103-0023,JAPAN +81(0)3 5542 1669

YUKI-SIS では、2019年2月16日（土）－3月2日（土）菊池史子個展 [TELLING A STORY] を開催いたします。

菊池史子は1986年生まれ。2009年日本大学藝術学部（芸術学科絵画コース/版画）を卒業後、渡独。ブラウンシュヴァイク美術大学 Candice Breitz 師事修士課程修了。現在もドイツ・ブラウンシュバイクで作家活動を行っています。

日本在住時は“記憶”や“関係性”、“時間”をテーマに、自身で撮りためた写真を厳選し、モノタイプという版画方法で作品を

発表してきました。ドイツに渡ってからは、映像作品を手がけるようになり、近年ではヴァイリ・ミュンツェンベルク・フォーラム・ベルリンという、権威ある映像のコンペティションで"Glück auf/ Good luck"という作品でエロバート映画賞を受賞しています（Willi Münzenberg Forum Berlin : Erobert Film Prize）。

現在、数年に渡って北海道・夕張市にて「夕張にかつてあった28校の小学校の校歌」をテーマ取材を実施しながら映像作品を制作。夕張市の情勢とともに統廃合を繰り返してきた小学校の多くは、その時代の変化が校歌の歌詞に影響を与えています。校歌を読むことで浮かび上がってくる当時の様子に焦点を当て、その校歌とともに育った卒業生へのインタビューを行なっています。その菊池の活動に北海道新聞やテレビなどの取材が集中。2017年のゆうばり国際ファンタスティック映画祭ではサテライト上映されるなど、社会的な時代背景を探る彼女の活動に関心が集まっています。

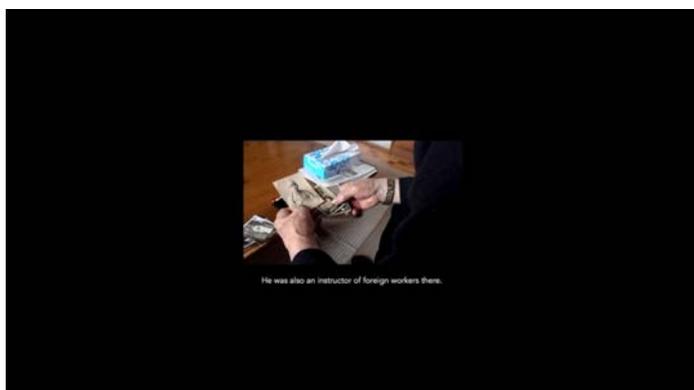
今回の個展のタイトルは「TELLING A STORY」。ドイツで受賞した"Glück auf/ Good luck"、そしてアニメーションも手がけた"I know where you are right now."の2作品の映像とともに、作品のドローイングとストーリーボードを発表いたします。2作品ともに、今は亡き祖父の記憶とともに語られるドキュメンタリー作品で、時間軸は違えどもすべてが繋がっていきながら続いていくことを物語っています。

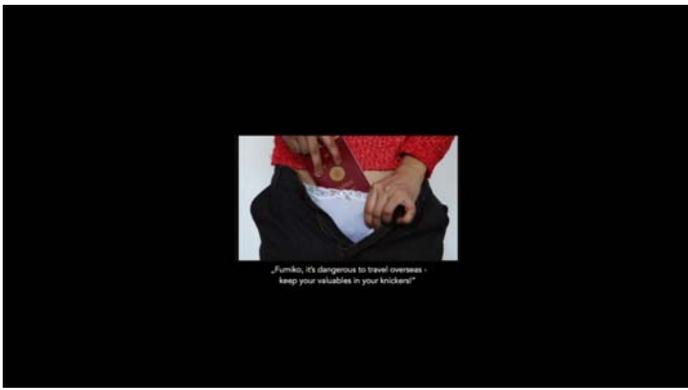
<Glück auf/ Good luck>



"Glück auf/ Good luck"

26分7秒 3チャンネルビデオインスタレーション HD、カラー、サウンド 2018年





2016年に他界した菊池史子の祖父が、炭鉱夫だったこともあり、炭鉱夫という存在に親しみを感じる作家が、1950年代に日本からドイツへ Gastarbeiter(ガストアルバイター)としてルール工業地帯に派遣された炭鉱夫をテーマに制作した作品。この作品で Willi Münzenberg Forum Berlin / Erobort Film Prize を受賞。

日本に戻った元炭鉱夫と、かたやドイツに残った元炭鉱夫の方にインタビューを行い、自分の記憶と状況を混ぜ合わせたドキュメンタリー。避難民や外国人労働者が外国でその後どのような時間を過ごしていくのかというテーマでもあり、ドイツで暮らす彼女自身が、今後ドイツに住むのか、日本に住むのかの選択を迫られる現状と重ね合わせ、自分のアイデンティティーはどのように作られていくのかを問う。外国人労働者の受け入れが問題になっている日本の現状を映し出しているともいえる作品。

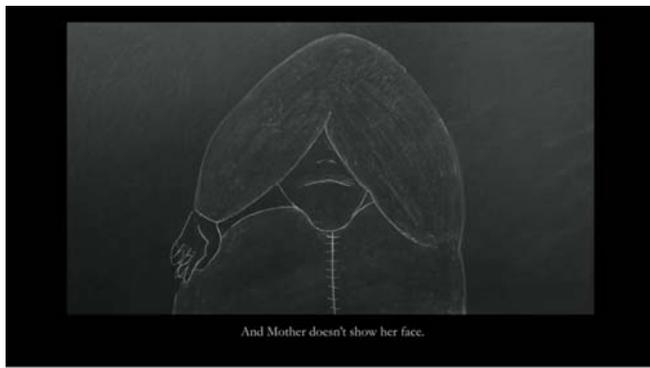
<I know where you are right now. >



"I know where you are right now."

ストップモーションアニメーション 6分28秒 1チャンネルビデオインスタレーション HD、カラー、サウンド 2018年





過去、現在、未来が同時に存在する時間軸の中に死というものが存在し、その死は同時に時間を止めているのではないかと、祖父の死と繋ぎ合わせたアニメーション作品。

アルツハイマー病を患ってから、孫である作家以外の家族の名前を忘れてしまった祖父が、突然天国の話をし始め止まらなくなる。2014年に実際に録音した、作家の祖父の声のナレーションを背景に、彼の語る天国の景色をストップモーションアニメーションで繋いだもの。アニメーションだが、ドキュメンタリー映像のような出来上がりになっている。